第2期滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～たきかわ創生「ちょうどいい田舎」の挑戦～

達成状況について

基本目標Ⅰ　農と食を活かした雇用創出と地域産業の育成・支援

数値目標　農業及び食関連産業における新たな雇用者数　**45%**

- ①　企業連携支援事業（産業振興課・農政課）　200%
- ②　農業競争力強化事業（農政課）　40%

数値目標　学生・生徒の市内就職率を5年間で5%上昇　**107%**

- ③　産業創造支援事業（産業振興課）　126%
- ④　地元就職支援事業【広域連携】（企画課・産業振興課・市立病院）　89%
- ⑤　多文化共生社会の実現と外国人人材定着支援事業（企画課・産業振興課）　15%

数値目標　観光客入込数を5年間で1.2倍に　**85%**

- ⑥　観光施設魅力向上事業（産業振興課・観光課）　85%

基本目標Ⅱ　すべての子どもの成長の支えと教育環境の構築

数値目標：合計特殊出生率の上昇（5年間）※H30合計特殊出生率1.3　**85%**

- ⑦　結婚・妊娠・出産・子育てに関する支援事業（企画課・保険医療課・子育て応援課・健康づくり課）　100%

数値目標　教育に関わる施策肯定度　85%以上を維持（毎年度）　**94%**

- ⑧　未来へつなげるキャリア教育推進事業（教育総務課）　98%
- ⑨　グローバル人材育成事業（教育総務課）　128%

基本目標Ⅲ　持続的なコミュニティの形成と暮らしやすさの追求

数値目標　ふるさと納税利用者数の維持　**75%**

- ⑩　関係人口の創出と定住の促進（総務課・防災危機対策課・企画課・財政課・くらし支援課・産業振興課）　75%

数値目標　國學院大學北海道短期大学部学生及び市内中高生等のボランティア参加者数　500人　**182%**

- ⑪　地域を支える人材の育成（大学連携室）　182%
- ⑫　地域資源を活かした住環境の向上促進（建築住宅課）　80%

「%」はR5年度末数値目標・重要業績評価指標(KPI)達成度

基本目標Ⅰ　農と食を活かした雇用創出と地域産業の育成・支援

数値目標　農業及び食関連産業における新たな雇用者数：40人（5年間）

R5年度末数値目標達成度

45 %

数値目標の進捗状況

農業及び食関連産業における新たな雇用者数：18人
【数値目標の内訳】・農業競争力強化事業：12人
（R２：１人、R３：２人、R４：５人、R５：４人）
・産業創造支援事業：６人
（R２：０人、R３：５人、R４：１人、R５：０人）

ICT技術導入実証実験

現地研修会（ドローン）

数値目標　学生・生徒の市内就職率を5年間で5%上昇　※（H31）25.3%

R5年度末数値目標達成度

107 %

数値目標の進捗状況

学生・生徒の市内就職率：32.7%

【数値目標の内訳】	就職者総数	市内就職者
滝川高校	4	1
滝川西高校	42	10
滝川工業高校	36	7
滝川高校（夜間）	5	0
國學院大學北海道短期大学部	47	13
高等看護学院	25	21
総数	159	52

（R２：31.4%、R３：32.9%、R４：36.1%）

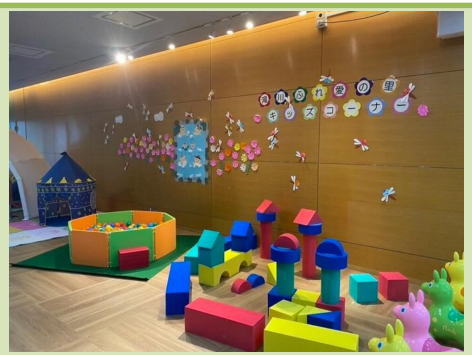
お仕事情報誌 good job!!

数値目標

観光客入込数を5年間で1.2倍に：786,700人（R6）　※（H30）655,600人

R5年度末数値目標達成度

85 %



滝川ふれ愛の里　キッズスペース

数値目標の進捗状況

観光客入込数：669,877人
（Ｒ２：529,690人、Ｒ３：537,865人、Ｒ４：632,031人）

たきかわ周遊 スタンプラリー

Ⅰ－①企業連携支援事業

産業振興課・農政課

事業概要

■企業誘致を推進するほか、農業や食関連の分野で市内に進出した企業及び、農業者や市内事業者との相互連携による新たな取り組みについて支援する。

◎企業誘致及び事業連携の推進
市内への企業立地や市内外事業者の事業連携等を促進し、新たな投資の誘発や雇用創出に取り組む。

◎誘致企業の取り組み支援
市内でのワイナリー設置及び醸造用ブドウ栽培、薬用作物栽培拡大、クラフトビールの販路拡大や新商品開発などの取り組みに対して、国や道などの制度活用のサポート、関係する事業者とのマッチングなどの支援を行う。

◎農産物や事業者商品の販路拡大支援
滝川産農畜産物を活用した商品のブラッシュアップや販路拡大、新商品の開発に取り組む事業者に対し、商談会出展や商品磨き上げなどの情報提供や実施機関を紹介をするとともに、商品PRによる認知度向上に向けた取り組みを支援する。

◎経営力強化に取り組む事業者に対する支援
新分野展開及び業態転換にチャレンジし、意欲的に経営力強化に取り組む事業者に対し、滝川市産業活性化協議会と連携し、産業創造支援事業補助金による支援を行う。

◎「たきかわマルシェ」の開催
市や商工会議所等で組織する滝川市産業活性化協議会の主催により、「たきかわマルシェ」を開催し、市内事業者が生産販売している商品やサービスを広く市民に周知する。

重要業績評価指標(KPI)

■企業誘致の件数、及び市の支援を通じて新たに創出した事業件数：５件（５年間）

R5年度末KPI達成度

[redacted]

200 %

進捗状況

企業誘致件数　２件（R5）
新規創出事業件数　８件
・工場等の新設等に対する助成金交付決定　１件
・産業創造支援事業補助金(新分野展開)　７件
（R２：０件、R３：５件、R４：１件、R5：２件）

事業の進捗状況の概要

■農畜産物や加工品等の販路拡大に向け、事業者に対し各種商談会等の情報提供や出展支援を行った。
■市内企業が抱える課題やニーズなどの把握を行い、関係機関との調整を図り、新たな事業展開に取り組む事業者に対し産業創造支援事業補助金による支援を行った。また、次年度に向けた事業承継に関する新たな支援の検討を行った。
■市内でのワイナリー設置事業者に対して国の制度活用のサポートを行った。また、クラフトビールの販路拡大に向けて地域おこし協力隊を委嘱し、オリジナルグッズの製作やＰＲ事業などを行った。
■市内への成長産業の企業立地やスカイスポーツを通じた滝川市での新たな起業に対して側面的な支援を行った。

事業の今後の見通し、課題等

■事業主の高齢化や後継者の不在による廃業が増えると見込まれることから、滝川市産業活性化協議会において事業承継に関する補助金メニューを新設し、各企業の事業展開に応じた支援を行う。
■市内への企業立地や市内外事業者の事業連携等を促進するため情報収集や誘致活動、立地企業への支援を行う。

Ⅰ－②農業競争力強化事業

農政課

事業概要

■持続的な地域農業の確立に向けた人材育成・確保を図るとともに、農業経営基盤強化に向けた取組を推進する。
◎滝川農業塾事業
　将来の地域農業を担う農業後継者に対し、滝川農業塾等により、実践的かつ総合的な技能習得に向けた研修を行う。
◎労働力確保対策
　農家人口増加に向けた取組を進めるとともに、新規就農者の確保を図る。
◎農業経営基盤強化対策
　スマート農業を推進することで、省力化・低コスト化に向けたICT技術導入を推進するとともに、篤農家の知識・技術継承に向けた農業データの蓄積・活用などを通じて、地域全体の農業経営基盤の強化を図る。

重要業績評価指標(KPI)

■Uターン・雇用就農を含む新規就農者数：30人（５年間）

R5年度末KPI達成度

40 %

進捗状況　新規就農者数　12人
（R２：１人、R３：２人、R４：５人、R５：４人）

事業の進捗状況の概要

■令和５年度の滝川農業塾では、塾生４人（第10期生４人）に対し、北海道立農業大学校の研修受講を支援したほか、ステップアップ研修として、先進地視察研修や米食味試験などを実施した。
■労働力確保対策として、新規就農者等の確保に向けた地域おこし協力隊員の募集活動を実施し、令和５年度に就農研修生として２人に対し、委嘱を行った。
■ほ場水管理システムの導入効果検証を行うスマート水田実証プロジェクトを実施したほか、滝川市ICT農業利活用協議会を事業実施主体として、ICT技術導入に向けた実証試験や生産者向け勉強会等を開催した。

事業の今後の見通し、課題等

■令和６年度の滝川農業塾は、研修２年目の塾生４人（第10期生４人）に対し、令和５年度と同様、農業大学校の研修受講を支援するとともに、塾生が希望するテーマの各種研修を実施するほか、カリキュラムの改善に向けた検討を行う。
■経営継承に向けた地域おこし協力隊員３人（令和６年度に１人を新規委嘱）に対する研修を実施するとともに、引き続き、協力隊員の確保に向けて大都市圏での募集活動を実施する。
■滝川市ICT農業利活用協議会を主体に、スマート水田実証プロジェクトを継続するほか、これまでの実証試験結果をもとに、ICT技術の導入効果の周知に努め、スマート農業の普及を推進する。

Ⅰ－③産業創造支援事業

産業振興課

事業概要

◎たきかわ産業支援相談窓口「TAKI-Biz（タキビズ）事業」
市や商工会議所等で組織する滝川市産業活性化協議会がワンストップ相談窓口を設置し、各構成団体の連携のもと適切な助言を行うなど支援強化に取り組む。
◎TAKI-Biz cafe
創業のあと押しを行うため、起業化を目指す人材や起業化して間もない人材を対象とした創業支援セミナーを開催する。
◎産業創造支援事業補助金事業
市内で新たに創業しようとする者の取り組みに対し、滝川市産業活性化協議会と連携し補助金を交付する。

重要業績評価指標(KPI)

■創業件数：15件（５年間）

R5年度末KPI達成度

126 %

進捗状況　産業創造支援事業補助金（創業支援件数）19件
（R２：０件、R３：７件、R４：６件
R５：６件）

事業の進捗状況の概要

■滝川市産業活性化協議会が設置するたきかわ産業支援相談窓口については、各構成団体との連携のもと、各種補助金などの情報提供や、相談内容に応じた支援を行った。
■TAKI-Biz cafeについては、創業において必要となる知識の習得支援やアドバイス等を行うため、全４回にわたる創業支援セミナーを開催したほか、初の試みとして、TAKI-Biz Cafe出身の創業者３名を講師とした創業者体験談をテーマとしたセミナー及び意見交換会を実施し、参加者同士の関係構築を図った。（登録者数122名）
■産業創造支援事業補助金事業については、新たに創業する６事業者の取組に対して補助金を交付した。

事業の今後の見通し、課題等

■創業や事業者の新たな取組に対する補助や、創業に必要な知識・ノウハウを学ぶTAKI-Biz cafeの開催等により、新たな地域産業を育成し、地域経済の活性化を図る。

Ⅰ－④地元就職支援事業【広域連携事業】

企画課・産業振興課・市立病院

事業概要

◎なかそらち合同企業説明会
新卒者の就業意欲醸成と地元就職を促進するため、中空知管内５市５町で構成する「中空知定住自立圏構想推進会議」において、「なかそらち合同企業説明会」を開催する。
◎企業見学バスツアー事業・企業向けセミナー
地元企業の人手不足改善をめざし、滝川市、赤平市、芦別市、上砂川町の３市１町で構成する「NAKASORAにこよう推進協議会」において、企業見学バスツアーや企業向けセミナー等を実施する。
◎市内企業情報誌の製作
市内企業の魅力発信と認知度向上を図るため、市や商工会議所等で構成する「滝川市産業活性化協議会」において、市内企業の特色等を掲載した情報誌を製作し、市内高校生・短大生に配布する。
◎【関連事業】地域医療人材の確保（市単独事業）
地域医療の適正な維持に向けて修学資金貸付制度の創設等により市立病院看護師の確保を図る。

重要業績評価指標(KPI)

■中空知管内への就職率：65%（R6）
※H29　57%、H30　60%

R5年度末KPI達成度

89 %

進捗状況

就職率：４年間(R2～R5)平均：58.20%
R２：61名/108名＝56.48%、R３：83名/155名＝53.55%
R４：88名/133名＝66.17%、R５：90名/159名＝51.49%

※　全期間の平均にて達成度を評価する。
※　引用：卒業生進路状況調べ及び市立病院聞取。
算式：(市内+管内)/(市内+管内+その他市外)

事業の進捗状況の概要

■「なかそらち合同企業説明会」を開催した。(全45社出展、中空知管内高校・短大５校48名参加)
■大学生のＵターン就職の促進を図ることを目的に、「大学就職課と企業との意見交換会」を開催した。(全３大学、延べ20企業参加)
■インターンシッププログラムや高校生、大学生に向けた情報発信方法をテーマとした「情報発信力向上セミナー」を開催した。(全8社12名参加)
■企業理念や事業内容、また、主な職種や勤務スケジュール等といった企業情報を掲載した「お仕事情報誌 good job!!」を1,500部製作し、市内高校生、短大生に配布した。
■地域医療人材の確保（滝川市立病院における滝川市立高等看護学院卒業生の看護師採用・過去5年間平均17名、令和６年度当初新規採用者21名）

事業の今後の見通し、課題等

■「なかそらち合同企業説明会」の開催や「お仕事情報誌good job!!」の製作、配布を行うほか、大学等への進学率が高い昨今の状況を鑑み、中空知管内の企業が札幌圏の大学を訪問し、学生と交流を図る事業や企業向けの採用力向上事業の実施を予定。

Ⅰ－⑤多文化共生社会の実現と外国人人材定着支援事業

企画課・産業振興課

事業概要

◎外国人材（モンゴル国等からの技能実習生等）受入支援事業
　市内企業の人材不足解消を目的として、滝川市の国際協力、交流等の基盤を活用しながら外国人材の確保を推進する。
◎外国人材定着支援事業
　市内企業で研修を行う外国人技能実習生が安心して生活できるよう、実習生の生活支援事業等を計画し、外国人材の確保と定着を図りつつ、多文化共生社会の実現に取組む。
　外国人材を受入する企業に対し、技能実習生等の母国における生活・文化・風習等の理解を深めるための研修会等を計画する。

重要業績評価指標(KPI)

■外国人材の受入人数　６０人（R6）　　※R１：４０人

R5年度末KPI達成度

15 %

進捗状況　外国人材の受入人数　９人
（R２：４人、R３：０人、R４：23人）

事業の進捗状況の概要

■モンゴル国からの技能実習生の受入れに向け、関係機関と調整を行い技能実習生を１名受け入れた。
■多様化する外国籍の方々との共通言語として日本語を使用するため、滝川国際交流協会と連携し、地域日本語教育スタートアッププログラム事業を実施した。
■外国人人材を活用している企業の外国人に対し通訳支援を行った。
■市公式ホームページに多言語で市内のゴミ出し方法や避難所での生活ルールなど、生活に必要な情報を発信した。

事業の今後の見通し、課題等

■交流先であるモンゴル国ウブルハンガイ県からの技能実習生受入等の支援をする。
■外国人人材を活用している企業の外国人に対し通訳支援を行う。
■市内企業や地域が円滑に外国人人材を受入れできるよう相互理解を深めるための研修会等を計画し、多文化共生社会の実現に向けた環境づくりを図る。

Ⅰ－⑥観光施設魅力向上事業

観光課

事業概要

■「たきかわ菜の花まつり」をはじめとした各種イベントを実施するほか、「たきかわ観光国際スクエア」「道の駅たきかわ」「滝川ふれ愛の里」「たきかわスカイパーク」など集客の核となる施設及び機能を充実させることにより、国内及び外国人観光客の誘客力を高めるほか、都市と農村の交流や物産振興等を通じて、交流人口・関係人口の増加を図る。

◎たきかわ観光国際スクエア
滝川駅前に観光・国際交流の拠点として令和２年４月にグランドオープンした「たきかわ観光国際スクエア」において、市・たきかわ観光協会・滝川国際交流協会との連携を図りながら、観光・イベント情報の発信、飲食店や観光案内等のインフォメーション機能を充実するとともに、国際交流イベント等を通じて交流人口の拡大を図る。

◎道の駅たきかわ
滝川観光の重要な拠点である「道の駅たきかわ」において、民間事業者の創意工夫のもと、特産品の販売や観光情報発信機能の充実を図るほか、新たなイベントの実施や道の駅機能の向上等に取り組む。地域住民や道内外からの観光客へ滝川の魅力を積極的に発信し、利用者数の増加を目指す。

◎滝川ふれ愛の里
民間事業者の管理運営のもとリニューアルした「滝川ふれ愛の里」において、新たにグランピングやフリーサイト等を備えたキャンプ場を整備し、パークフィールド72やB＆G海洋センターなどの周辺施設とも連携を図り、集客力の向上を目指す。

◎たきかわスカイパーク
外客誘致の玄関口として、施設の整備や飛行環境の充実を図るとともに、特にインバウンド観光客に焦点を当て、「たきかわ観光国際スクエア」「道の駅たきかわ」「滝川ふれ愛の里」等と連携し、独自性の高い事業を展開することにより、関係人口の拡大を目指す。併せて、子どもたちの空に対する興味や関心を培う啓発事業等を通じ、持続可能な事業推進に取り組む。

重要業績評価指標(KPI)

■観光客入込数　786,700人（R６）
※H30年：655,600人×1.2倍

R5年度末KPI達成度

85 %

進捗状況　観光客入込数　669,877人
（R2：529,690人、R3：537,865人、R4：632,031人）

事業の進捗状況の概要

■市最大のイベントである「たきかわ菜の花まつり」は、立ち入り可能な専用会場を設け実施した。「ワイン×ワインfesta」についても多くのワインファンが参加できるようイベント内容を工夫し実施した。「たきかわ周遊スタンプラリー」は、石狩川沿いの周辺施設を中心とした市内12施設を周遊するラリーを実施し、次のステージへ進むエクストラステージのスタンプラリーも加えて実施した。情報発信としてＳＮＳ等の活用、総合交流ターミナルたきかわ指定管理者と連携した情報発信を積極的に行った。

■令和５年度は新たに(株)滝川振興公社を指定管理者に選定し、切れ目のない運営を行うとともに、キッズスペースの設置のほかテントサウナ体験会やティラノサウルスレース等イベントの開催など集客施策やサービス向上の取組を行った。

■スカイスポーツイベント「サマースカイフェスタ」を開催したほか、グライダートレーニングとワーケーションを組み合わせた来訪者の受入れ通じて関係人口の拡大を図った。

事業の今後の見通し、課題等

■コロナ禍前の状態と同様のイベントを実施する。

■総合交流ターミナルたきかわ指定管理者と連携し、特産品の開発や定期的なイベント開催等により、道内外からの集客力の向上を目指す。

■滝川ふれ愛の里の更なる利用促進に向け、指定管理者と連携し、集客イベントの開催やサービスの向上を図る。

基本目標Ⅱ　すべての子どもの成長の支えと教育環境の構築

数値目標　合計特殊出生率の上昇（5年間）：　※（H30）1．3

R5年度末数値目標達成度

85 %

数値目標の進捗状況

合計特殊出生率：1.11
（R２：1.29、R３：1.47、R４：1.11）

転入者交流会（子育て世代包括支援事業）

数値目標　教育に関わる施策肯定度：85%以上を維持（毎年度）(学校評価アンケート)

R5年度末数値目標達成度

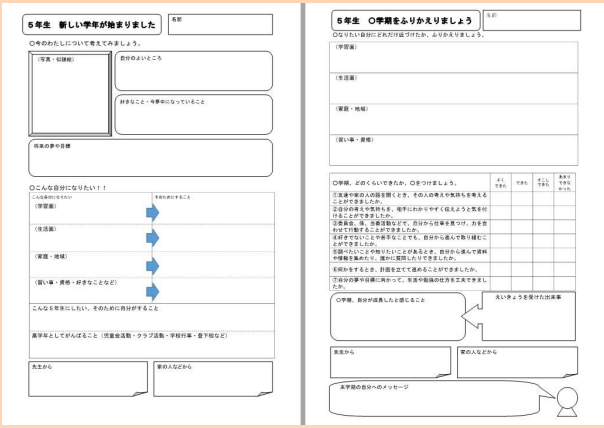
94 %

数値目標の進捗状況

教育に関わる施策肯定度：80.0%
【数値目標の内訳】

子どもの学校生活に関する肯定度	82.3%
子どもの学習（授業）に対する肯定度	80.2%
きめ細かな指導に対する肯定度	77.4%

（R２：87.3%、R３：81.6%、R4：84.0%）



滝川版キャリア・パスポート（児童用）

Ⅱ－⑦結婚・妊娠・出産・子育てに関する支援事業

企画課・保険医療課・子育て応援課・健康づくり課

事業概要

◎婚活への支援	若者の結婚の希望を叶えるために、婚活を支援する。
◎要支援妊産婦への支援	保健師による妊産婦への面談により要支援者を把握し、支援する。
◎すこやか赤ちゃん支援事業	子育て世帯の経済的負担や精神的負担の軽減を目的として、クーポン券等の配布や適切な支援事業を紹介するなど、子育て支援の充実を図る。
◎子ども医療費無償化	子育てに係る負担軽減を目的として、子ども医療費の無償化に努める。
◎子どもの遊び場の確保	冬期間や雨天時にも安心して遊べる屋内遊園設置を検討する。
◎子育て世代包括支援センター事業	専門職員が、妊娠・出産・子育てに係る相談に応じ、一人ひとりに寄り添い切れ目のないサポートに努める。

重要業績評価指標(KPI)

■要支援妊産婦への支援実施割合：100％（毎年度）

R5年度末KPI達成度

100 ％

進捗状況

要支援妊婦(特定妊婦含む)　19名/185名(10.3%)
要支援産婦　81名/151名(53.6%)

事業の進捗状況の概要

■令和５年度に市として初めての婚活イベントを開催した。市内外から男女19名の参加（１名欠席）があり、出会いの場が創出された。
■妊娠届出をした全妊婦と母子手帳交付時、妊娠中期の２回及び必要時面接、産後は新生児訪問により、支援を要する妊産婦を把握、訪問や来所による面談、電話、各種教室への勧奨、４～５か月児相談による切れ目のない伴走型支援を実施している。
■子育て世帯の経済的・精神的負担の軽減のための「すこやか赤ちゃん支援事業」を実施した。
■子ども医療費無償化については、令和５年８月から助成対象を中学生（１５歳年度末まで）まで拡大し、所得制限要件を撤廃した。
■屋内の子どもの遊び場としては、就学前の子どもを対象に一の坂、花月両地域子育て支援センターのほか、花月地区児童センターにおいて、こども広場を実施している。
■子育て世代包括支援センター事業において、専任の相談員が窓口となり、切れ目ないサポートに努めるとともに、地域において孤立を防ぐための転入者の交流会や、多胎児を養育する保護者の心理的負担を軽減するための交流会、妊婦と子育て中の母親の交流会などの事業を実施した。

事業の今後の見通し、課題等

■令和６年度も婚活イベントを開催し、結婚を望む若者を支援する。
■妊婦全員との面接、新生児全戸訪問の実施を継続し、要支援者の把握、支援へとつなげる。
■令和５年２月からの伴走型相談支援、令和５年４月からの産後ケア事業、産婦健診事業の開始により、切れ目ない相談支援体制を強化。
■子ども医療費無償化については、引き続き、助成対象を中学生（１５歳年度末まで）まで拡大し、所得制限要件を撤廃する。
■「すこやか赤ちゃん支援事業」や「子どもの遊び場の確保」、「子育て世代包括支援センター事業」などについては、限られた財源を真に必要な事業に充てるため「（仮称）滝川市こども計画」の策定に併せて検討を進める。

Ⅱ－⑧未来へつなげるキャリア教育推進事業

教育総務課

事業概要

■児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。
①学校における体系的・系統的なキャリア教育実践の促進
②職場体験学習やインターンシップ等の職業に関する体験活動の促進
③児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等(滝川版キャリア・パスポート)の活用

重要業績評価指標(KPI)

■全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙における「将来の夢や目標を持っている」の項目において全国平均以上の評価

【対象児童生徒】　小学校６年生…274人
中学校３年生…246人

R5年度末KPI達成度

98 %

進捗状況

「将来の夢や目標を持っている」の項目において肯定的な回答
小学校６年生81.0％（81.5%）
中学校３年生64.6％（66.3%）
※(　　)内の数値は全国平均

事業の進捗状況の概要

■滝川版キャリア・パスポートを活用するなど、特別活動を要とした各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実に努めた。

事業の今後の見通し、課題等

■令和６年度　４月～：児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等(滝川版キャリア・パスポート)の活用
：特別活動を要とした各教科等の特質に応じたキャリア教育の推進
９月～：職場体験学習やインターンシップ等の職業に関する体験活動の促進
■令和７年度以降　令和６年度の結果を踏まえた取組を展開する。

Ⅱ－⑨グローバル人材育成事業

教育総務課

事業概要

■児童生徒の英語力・コミュニケーション能力を養い、グローバル化に対応した人材の育成を図る。
①「Englishトライアル」(中学校）及び「英語deトライ」(小学校)を実施し、市内の小学生及び中学生が英語に親しみ、英語によるコミュニケーションへの興味や関心・意欲の向上を図る。
②市内６小学校において英検ESG、市内３中学校において英検ＩＢＡを実施し、市内児童・生徒の英語力の実態を把握する。
※英検ESG・英検ＩＢＡ：日本英語検定協会の英語能力判定テスト
③日頃から英語に親しむことができる環境を充実させることにより、児童生徒の主体的な学習意欲を喚起する。
・英語ルームの充実
・千歳科学技術大学のｅラーニングシステムの活用

重要業績評価指標(KPI)

中学校における英検３級合格者：50人超（毎年度）

R5年度末KPI達成度

128 %

進捗状況

英検３級合格者：64人
※準２級合格者16人、２級合格者4人を含む
（R２：49人、R３：45人、R４：59人）

■令和５年度英検ＩＢＡ
英検ＩＢＡ受験者（中学校１、２、３年生）…750人
「英検３級Ｌｖまたは英検３級以上Ｌｖの英語力を有していると思われる生徒数」…150人

事業の進捗状況の概要

■令和５年度は、ｅラーニングシステムの活用促進を図った。また、英検ＥＳＧ及び英検ＩＢＡに取り組み、児童・生徒の英語力の実態を把握し、その結果を授業改善につなげ、生徒の英語力向上に資するとともに、英検本受験への意欲化を図った。

事業の今後の見通し、課題等

■令和６年度　４月～　　：英語ルーム等の整備（英検検定書、外国語(英語)の教材　等）、ｅラーニングシステムの活用促進
４月～３月：英検受験への意欲付け
９月～１月：英検ＥＳＧ実施（市内６小学校６年生）、英検ＩＢＡ実施（市内３中学校１、２、３年生）
10月～　　：「Englishトライアル」(中学校）及び「英語deトライ」(小学校)を実施
■令和７年度以降　令和６年度の結果を踏まえた取組を展開する。

数値目標　ふるさと納税利用者数の維持：※R1利用者数 56,438人

R5年度末数値目標達成度

75 %

数値目標の進捗状況

ふるさと納税利用者数：42,306人
（R２：90,466人、R３：104,630人、R４：105,768人）

ふるさと納税返礼品　※一例

【滝川クラフトビール】　【三優羽毛ふとん】

スカイワーケーション

数値目標　國學院大學北海道短期大学部学生及び市内中高生等のボランティア参加者数：500人（毎年度）

R5年度末数値目標達成度

182 %

数値目標の進捗状況

ボランティア参加者数：912人

短大→ゼミ活動520人、小学校補習授業サポート109人
高校→外局活動54人　　中学生→229人

（R２：410人、R３：456人、R４：581人）

Ⅲ－⑩関係人口の創出と定住の促進

総務課・防災危機対策課・企画課・財政課
くらし支援課・産業振興課

事業概要

■関係人口の創出・拡大を図りつつ、都市部からのワーケーション等新たな関りの構築を推進し、将来の移住者確保を目指すほか、安定的な定住者の確保に努める。

◎関係人口の確保、拡大　ふるさと納税を通じた関係人口の確保と拡大に努めつつ、官民連携の観点から企業版ふるさと納税による事業推進の検討を進める。

◎新たな都市部との関りの創出　ワーケーション等による都市部住民との新たな関りと関係人口の創出に努め、将来の移住等に向けた関係構築への取組みを推進する。特に、グライダーを主軸として、ワーケーションの活用による企業関係者や学生等の来訪を積極的に促し、また次世代の航空人材の輩出につなげる取組を通じて、継続的な関係人口の拡大を図る。

◎適切な公共施設の維持管理　将来にわたり持続可能な公共施設の運営を図るため、滝川市公共施設個別施設計画前期計画を推進する。

◎行政におけるDXの推進　滝川市DX推進計画に基づき、行政における業務効率化の推進等により、市民生活の更なる向上を図る。

◎災害に強いまちづくり　タイムラインをはじめとして防災体制の整備に努め、安心して定住できるまちづくりを進める。
国土強靭化地域計画の策定を進める。

◎地域コミュニティへの参加促進　市民自らが地域の課題を解決し、住みよいまちづくりを進めるため、地域コミュニティの基礎となる町内会活動への参画を促す。
地域力を生かした活動に参画する仕組みづくりを検討する。
コミュニティスクールの活動を通して、地域と学校の連携による活動を推進する。

重要業績評価指標(KPI)

■ふるさと納税利用者数の維持
※令和元年度利用者数 56,438人

R5年度末KPI達成度

75 %

進捗状況　ふるさと納税利用者数　42,306人
（R２：90,466人、R３：104,630人、R４：105,768人）

事業の進捗状況の概要

■地場産品基準の厳格化によりふるさと納税利用者数が前年度と比較し減少（▲63,462人）した。
■企業版ふるさと納税による寄附を受領した（令和５年度：10件）。
■グライダーワーケーションを通じて、リピーターや企業版ふるさと納税の獲得、大学グライダー部の合宿誘致のほか、地域と連携した新規事業の試みや製造商品等に係る本市での定期的な調査実施が検討されるなど企業連携等に繋がった。
■新たな課題や優先事項の整理を行い、滝川市公共施設個別施設計画の改訂準備を進めた。
■書かない窓口およびコンビニ交付の開始、キャッシュレス決済の導入などの窓口改革を推進したとともに、ホームページのリニューアルによる情報発信力の強化を図った。
■防災資機材の充実化を図るとともに、防災研修等を通じた人材（防災サポーター等）の育成を行った。
■市内で防災教室を開催し、市民や学校の防災意識の向上を図った。また、滝川市強靭化計画（国土強靭化地域計画）を策定した。
■江部乙地域において、地域の人材・特色を活用した事業を促進した。
■町連協において、女性や学生を活用した新たな担い手の発掘に取り組んだ。

事業の今後の見通し、課題等

■令和６年度も引き続き、ふるさと納税を通じた関係人口の確保と拡大に努めつつ、官民連携の観点から企業版ふるさと納税による事業推進を図る。
■令和３年度のモデル事業実施により、他地域と比較して優位性があるとされた地域資源であるグライダーを活用したスカイワーケーション事業の実施によるブランド化を推進し、経済活性化に資する新たな展開を視野に入れながら、交流・関係人口の拡大につなげる。
■令和６年度も引き続き、利用者にとってわかりやすい・利用しやすい窓口改革を進めるとともに、デジタル技術を活用した行政における業務効率化の推進を図る。
■定期的な研修や訓練等を通じた市民への防災啓発の継続が必要であり、特に高齢者や障がい者などの災害弱者の支援を重点的に考え、地域ぐるみのサポート体制の構築が求められる。
■町内会の求心力が弱まり役員のなり手不足が深刻化していることから、誰もが参加できる町内会活動を目指して、地域コミュニティと行政の協働のあり方について検討する。

Ⅲ－⑪地域を支える人材の育成

大学連携室

事業概要

■地域の資源や活動の魅力を掘り下げるとともに、地域の行事やボランティア活動への学生・生徒の参画を促進することで、地域を支える人材の育成を目指す。
■國學院大學北海道短期大学部が実施するオープンカレッジや出前講座などを活用し、自ら学びを求める市民を支援する。
■地域の資源や活動の魅力を掘り下げていくため、國學院大學観光まちづくり学部との連携を進める。
■國學院大學北海道短期大学部及び、市内中学校、高等学校と連携し、地域活動に参加する学生及び生徒数の増加に取り組む。
■年齢・性別に関わらず地域活動に積極的に関わる人材の育成に努めることにより、若者の地元定着を目指す。

重要業績評価指標(KPI)

■國學院大學北海道短期大学部学生及び市内中高生等のボランティア参加者数　500人（毎年度）

R5年度末KPI達成度

[redacted]　**182 %**

進捗状況　学生・生徒のボランティア参加人数：912人

（短大→ゼミ活動520人、小学校補習授業サポート109人
高校→外局活動54人　　中学生→229人）

（R２：410人、R３：456人、R４：581人）

事業の進捗状況の概要

■國學院大學北海道短期大学部連携事業補助金の交付により、ボランティア活動や地域活性化を促進する取組、地域活動に対する支援やオープンカレッジ事業等への支援を実施した。
■國學院大學観光まちづくり学部教員による市内視察や意見交換を実施し、滝川の資源や地域活動の魅力を再確認した。また、観光まちづくり学部学生による市内フィールドワークを実施し、学生の視点によるまちづくりへの取組アイデア発案を行った。

事業の今後の見通し、課題等

■令和６年度も引き続き國學院大學北海道短期大学部連携事業補助金を活用し継続した支援を行うとともに、國學院大學観光まちづくり学部との連携を進め、さらなる地域人材育成につなげる。

Ⅲ－⑫地域資源を活かした住環境の向上促進

建築住宅課

事業概要

■中空知住替え支援協議会が斡旋する戸建て賃貸住宅に転居する子育て世帯に対し、家賃の一部を助成する。
■優良な住宅地としての活用が見込まれる市有地については、分譲を促進する。

重要業績評価指標(KPI)

■住み替え支援制度利用件数：30件（5年間）

R5年度末KPI達成度

80 %

進捗状況　支援制度利用件数　24件

（R２：７件、R３：９件、R４：５件、R５：3件）

事業の進捗状況の概要

■広報やホームページに概要を掲載し周知を図った。
■住み替え支援制度を利用する子育て世帯に対し、新規世帯に家賃の一部を助成した（令和５年度：３件）。
■戸建て住宅の情報紙や広報紙を年２回発行し、関係する９４団体に配布した。

事業の今後の見通し、課題等

■市内の地域資源である良質な住宅ストック情報を収集、活用し、引き続き居住環境の整備を促進していく。
■各事業部会等で戸建て賃貸住宅の現状について情報共有し、住宅ストックの掘り起こしを行い登録件数の増加を図る。